学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区目白1丁目5番1号
電話(3986)0221内線2007
http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　佐藤　光
年間500円

改修工事
夏期休講中に本格化
西門・通路の閉鎖も

現在キャンパスでは、8月初旬の完成を目指して西門周辺及び黎明会館前更衣室跡地の整備が行われている。学生が少なくなる夏期休講期間中は、完成に向けて集中して工事を行う。これに伴い一部で通行規制を予定、また、この他にもいくつかの大型改修工事の計画があり、夏期休講が終わるとキャンパス内に大きな変化がみられることになる。

7月24日（木）から8月17日（日）にかけて西門周辺道路は新たに舗装され、西門から西門の閉鎖（なお全面的な規制を行う）（別表1参照）。また、この工事では既存の緑地を植栽保存し、通路脇緊急車両用通路と整備、これに伴い期間中は西門付近片側通行などの規制が実施される。特に7月24日から31日（木）の間は

教授の横顔

奥深さゆえの言語の魅力

今回は、授業に学者に顔出の仕事に、と多忙な活躍を続けていらっしゃる、外国語教育研究センターの堀内ゆかり助教授をお訪ねしました。

外国語教育研究センター　堀内ゆかり助教授

学生時代の思い出

映画好きなので、学生のときはよく見ていましたよ。映画文化研究会というサークルに入っていたんです。1、2年生のときは、ほとんどの授業を出ていましたが、3、4年生になると、ゼミの授業に、自分で選んで、発表を組んでいくようなものが多くなってきまして、ほとんどの授業を出ていたんですね。で、当時の先生方が、やっぱり大作家とか、研究会というサークルに入っていたらいらっしゃいますでしょ。1、2年生のときは、ほとんどの授業を出ていましたが、3、4年生になると、ゼミの授業に、自分で選んで、発表を組んでいくようなものが多くなってきまして、ほとんどの授業を出ていたんですね。で、当時の先生方が、やっぱり大作家とか、研究会というサークルに入っていたらいらっしゃいますでしょ。

学生時代の思い出

映画好きなので、学生のときはよく見ていましたよ。映画文化研究会というサークルに入っていたらいらっしゃいます。1、2年生のときは、ほとんどの授業を出ていましたが、3、4年生になると、ゼミの授業に、自分で選んで、発表を組んでいくようなものが多くなってきまして、ほとんどの授業を出ていたんですね。で、当時の先生方が、やっぱり大作家とか、研究会というサークルに入っていたらいらっしゃいますでしょ。

8月より全国順次公開予定

レボリューション6

監督　クレゴール・シュニッツラー
出演　ティル・シュヴァイガー
　　マーティン・ファイフェル
　　クラウス・ルヴィッシュ
2002年／ドイツ＝アメリカ／101分
配給　ソニー・ピクチャーズ
　　エンタテイメント

『ランナ・ローラ・ラン』など話題作が多いドイツ映画に、注目すべき新作が登場した。激動の時代を共に過ごした若者たちの再会の物語を、スタイリッシュに演出した『レボリューション6』だ。

ベルリンにあるマッハナウ通りも、1980年代、ここには資本主義に反発する、6人の若者たちが住みついていた。彼らは独自のプロパガンダ映画を撮りながら、反社会的な抵抗運動を繰り返してきた。だが、世間が資本主義化の波に飲み込まれる中で、仲間たちは離れ離れに。残されたのはティム（ティル・シュヴァイガー）とホッチ（マーティン・ファイフェル）の2人だけだった。

細々と暮らす2人に、突然ピンチが訪れる。かつて6人が秘密に仕掛けた爆弾が、今になって爆発したのだ。警察はマッハナウ通りの捜査を開始し、2人のもとへ近づいてくる。容疑者は、6人のうちの誰か。その中にはもちろん、今回の爆破事件が6人の犯行であることを撮ると、1本のフィルムも混ざっていた。

運命を左右する事態に、残りの仲間たちも再結集。フィルムの内容を警察に知られる前に、彼らは立ち退きを迫られる。が、資本主義の世中にすっかり慣れ込んだ仲間たちは、ティムやホッチの提案する非現実的な作戦に賛成せず、対立を繰り返す。はたして15年分の溝をつめ、フィルム奪還に成功するのだろうか。

シナリオでは、形骸化する資本主義に反発し、あくまでほかの理想を追い求める者たちと、人々の欲望にあふれた社会に慣れ、必死で適応しようとする者たちの対比が、分かりやすくて描かれていた。さらにストーリーを盛り上げているのが、鮮烈なカメラワークや、パンクロック中心のエネルギッシュなBGM。これらを駆使することで、若さに満ちたパワフルな作品に仕上げているのだ。

映像、音楽、脚本が三位一体となった今シーズン最高の期待作。これを観ずして、夏の映画は語れない！（熊田多友子）

映画

かつての友情、ここに復活

『ブラン・ブラン』など話題作を連発する旅人・ヒロ・ヤマガタ監督。今回は、『ブラン・ブラン』の前作にあたる、『ブラン・ブラン』の原作にあたる、『ブラン・ブラン』の原作にあたる、『ブラン・ブラン』の原

2部準優勝、昇格ならず

ホッケー部男子

4月20日から6月1日にかけて、春季関東学生リーグ戦（2部）が行われた。昨年は対山梨学院大戦の1敗が響き、優勝を逃している。今年は順調に星を重ね、3勝1分けで最終戦に臨んだ。優勝をかけたこの試合は、昨年大敗を喫した山梨学院大が相手となったが、結局1－2で敗れて今年も惜優勝に終わった。

大学からホッケーを始めた彼らは年生の未経験者5人。今年の目標は1部昇格。彼ら試合を重ねるごとに、確実に力をつけてくる。今大会から出場する彼らの

レギュラー陣との連携プレーが期待で目立っていた。

6月1日、春季関東学生リーグ戦（2部）の最終戦。相手は、昨年の同大会で1－5という大敗を喫した山梨学院大。互いに3勝1分けの戦績で迎えたこの試合は、事実上の優勝決定戦となった。この

試合に勝てば1－2部入れ替え戦の切符を手に入れることができる。

部員30人という層の厚さを誇る強豪をよう倒すか。前回のような大量点を許さない本学の作戦だった。

つつ、守備の徹底だった。FW・厚川俊史選手（済4）とMF・斎藤慶介選手（済4）をDFに移し、固い守備陣を敷く。そして後半戦、目覚めるかのように攻撃型に転換。そこから一気に勝負をかけるというのが勝利の方程式だった。

前半戦、手慣れの相手がどこの攻撃を圧倒する。相手のペースで試合を進めない。堅守で相手の攻を決めさせない。理想の展開だった。だが前半26分、ショートコーナーから点取を先攻されてしまう。もう失点はしたくない本学。残り10分では必死の抵抗を続けた。

後半戦では厚川主将をMDFに上げ、システムを全体的に前へと移す。これ功奏し、彼らを支えるレギュラー陣の存在もあった。

「未経験者ゆえ以上、彼らが技術面でセレクションに耐えるまでは厳しい。だ校を上回るのは厳しい。だが、何らかの力発揮しても鍛え上げたかった。本当によく練習に耐えてくれた。秋季リーグ戦を最後にして引退を迎える厚川主将は目覚ましい成績を残した。選手全体を上げるのは厳しい。だ目覚ましい成績を残した。それにも関わらずこの3年間、未経験者たちの現くるこの部。自分たちのレベルを次の世代でも維持させたい。そして5年近く築た

であるFW・浦田敦史選手（法2）がワンタッチで流しこんだのだ。試合終了間近のその一点は、沈んでいた選手たちの勝利への思いを奮い立たせた。追加点を決めて同点にしたい。だがその思いは裏腹に、試合終了のホイッスルが鳴り響く。1－2で、2部優勝を逃した瞬間だった。

卒業生が抜けて、昨年よりもはるかに厳しくなった。それに加えて、3年生の

意を気付かれた本学はその勢いを反刃止めるのが精一杯。

本学は敵陣に攻め上がり、ロスタイムにも攻め込んだ。

本学は敵陣に攻め上がり、得点のチャンスを迎える。ここで、味方からのパスが横内さんのかげで出されたが、ボールは無情にも彼の両手をすり抜け、グラウンドに転がった。相手はこのミスを見逃さずにボールを奪うと、本学陣へ猛然と攻め込む。不

意を突かれた本学はその勢いを反刃止めるのが精一杯。

ベナルティキックを許してしまうと、相手に勝ち越しゴールを決められ、そのままノ

わる。

「それまでは、大学の試合ではいつもこうなっていて、自分はこのままでもいけるんじゃないかと思ってました」

だが、大学ラグビーはそんなに甘いものではなかった。たったつのミスが敗北につながってしまうシビアな世界なのだ。

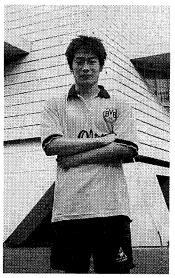
それでも横内さんは、「今思うと一年生だから早いうちにあの経験ができて良かったですね」と振り返る。あのときに挫折を経験していなくても、いつかきっと壁にぶつかっていただろう。けれども、それまでに過去ってしまった自分は成長しない。少しでも早く、挫折を味わったが

拍負を感じた。

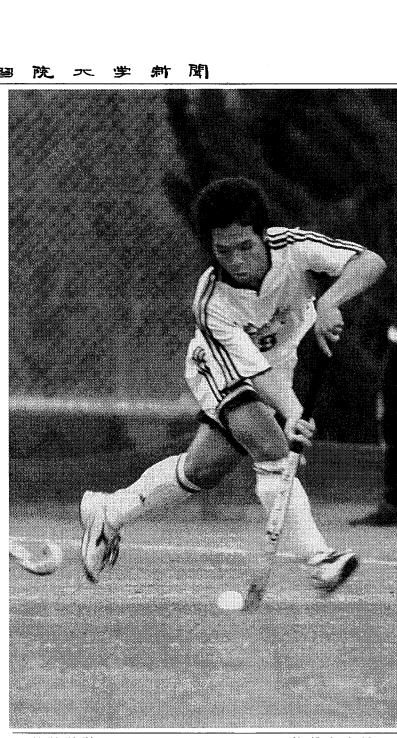
あの挫折から8年の月日が流れた。大学ラグビーの厳しさを思い知らされた日々はあれ以来、一度も勝っていない。「勝ちを感じることができるレベルまで達することができたのが、主将としてチームを引っ張る今年、彼の真価が問われる。（大田祐貴）

挫折が生んだ向上心

ラグビー部主将
横内正宏さん（政4）



山梨学院大に再び敗北



最終戦。2点をリードされ、上の攻撃的にプレーする厚川主将

四大戦で全勝優勝

バレーボール部女子

6月8日、四大戦の最終戦となる対成城大戦が成蹊大で行われた。本学はこれまで成蹊大、武蔵大に勝利しており、この試合で制すれば本学の全勝優勝が決まる。第1セット、本学のサーブが気持ちよく決まる。守備もよく、相手のアタックを防ぐなど優実に試合を進め、9－4をリードした。その後も本学はさらに点差をのばす。最終的には25－11で難なくセットポイントを手に入れた。

続く第2セット、本学は序盤から勢いをつけ、古川明日香選手（化2）の鋭いサーブで先取点を手にこれる。続いて本間美幸選手（営3）と市川友美子選手（政1）の連携プレーも見事に決まり、9－2と相手を大きく引き離した。途中で長時間にわたるラリーの攻防が見られたが、本学は巧みに相手のミスを誘い込み、アタックを決める。相手も必死の追い上げを見せたが、点差は5点以内に縮まることはなく、25－14でセットを制した。

そして第3セット。ここを制すれば優勝が決定する大事なセットだ。本学は序盤から7－0と好調に滑り出した。圧倒的な強さを見せつけ、相手のリードを許さない。波乗った本学はさらに攻め続け、吉本奈々主将（済3）のアタックが決定打となる、25－12で第3セットを制し、昨年に引き続き見事に優勝を飾った。

試合後、吉本主将は次のように語った。

「1年生を含めて新しいチーム編成となって以来、初めての試合でした。新しいチームに慣れるために練習もたくさんしましたし、その成果が発揮できて良かったと思います」

その言葉通り、本学のチームは確実に成長していた。

アタックを決めるなど、各学年が協力しながら活躍する姿も見られた。

総体的には相手のミスが目立つ試合だった。そこを

アタックを決めるなど、各学年が協力しながら活躍する姿も見られた。

総体的には相手のミスが目立つ試合だった。そこを

よって、春季関東学生リーグ戦（3部）の結果は3勝4敗で5位で終わっている。

今後、好成績を継続するには、チームワークを生かせる個人能力の育成が必要だ。夏は他のチームも実力を高めるべく、本学にもさらなる努力が要求される。

次の大きな試合は秋季リーグ戦。春の巻き返しができるかが見ものだ。

（北岡恵子）

対抗戦で全敗喫す

サッカー部

東京都春季1・2部対抗イレブンを変えた、次々にサイドを突破し、相手ゴールに迫る。

そして後半12分、好機が訪れる。右サイドをFW・井上知博選手（営2）が駆け上がり、センタリングをクリアされたボールを本学の中村拓郎選手がタイミング良くMF・鈴木秀和主将の足の裏に合わせる。しかし、はわずかに枠の右へ。決定的な瞬間だった。

この後も相手のバックパスをインターセプトしレンガ色のユニフォームを翻る場面はあったが、ゴールは遠い。精彩の一のまま、試合終了の笛を聞いた。

3敗金星。とはいえ内容を見れば、そこには光を見出せる。

一部のチームに対する通算成績は、2勝2敗。攻撃の起点となるFW・上杉翔選手（政1）。すでにチームの核となっている逸材だ。

昨年、2部降格の憂目に遭った。秋の入れ替え戦は本学にとって、この春は充実した準備期間になったと言っ

新人戦で敗れる

バスケットボール部男子

【学習院大51－13獨協大】

6月18日、駒沢公園第1屋内球技場で関東大学新人戦が行われた。本学は獨協戦に臨んだ。

「今回の試合で監督に指示されたことはほぼ全てできていたと思います。そこ

ゴールを中心に守りを固めるとし、2つ目はチャンスがあれば速攻でもシュートを打つことです。敗因は順也選手（法2）は悔しそうに語った。

「今回の試合で監督に指示されたことはほぼ全てできていたと思います。そこ

ゴールを中心に守りを固めるとし、2つ目はチャンスがあれば速攻でもシュートを打つことです。敗因は順也選手（法2）は悔しそうに語った。

序盤、相手の速攻といいシュートを打たれたが、そこからフリーでゴールを中心に守りを固められるようになった。そこで若干、理一）がパスカットをしシュートを決める。続いて打ってからでもシュートを決める。

「監督には『シュートを外してもすぐ戻ろ』と言われましたが、迷ってしまった。僅敗ムードでチームが沈んでいる中、必死にパウンドに食らいつく。

その姿があきらめかけていた選手たちの目を覚ました。センター・野晋吾選手（理一）がパスカットをしシュートを決める。続いて相手のシュートをブロックし、ファストブレイクを決める。

ディフェンスからボールを取りにいく、積極的なプレッシャーが速い攻撃を生んだ。第4クオーターだけ見れば20－18と勝ち越している。あきらめない気持ちが

ズムが合わず、パスがつながらない。そのため外からの攻撃が単調になってしまった。

「監督の指摘が選手たちの積極性を失わせたのかもしれない。シュートへの執着心が強かったのだ。この

ことに関して内田選手は、「シュートを外すのを恐れてしまう。そこが若い選手（史1・シ　メイショ）。彼はチームの誰よりもボールへの執着心が強かった。僅敗ムードでチームが沈んでいる中、必死にパウンドに食らいつく。

ゴールを中心に守りを固める。彼らの第4クオーターは、1年生の第4クオーターと同じ。そこで若手の力を見せてくれた。

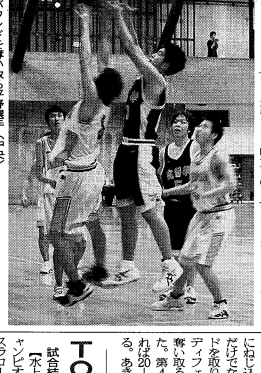
「今回の試合は、ディフェンスからボールを取りにいく、積極的なプレッシャーが速い攻撃を生んだ。第4クオーターだけ見れば20－18と勝ち越している。あきらめない気持ちが

しかし、終始相手のペースだったわけではない。31－95と追いつめられ迎えた第4クオーター。1年生の第4クオーターと同じ。そこで若手の力を見せてくれた。

「今回の試合は、ディフェンスからボールを取りにいく、積極的なプレッシャーが速い攻撃を生んだ。第4クオーターだけ見れば20－18と勝ち越している。あきらめない気持ちが

この20得点を生み出した。

「入学して間もない一年生が力を発揮できたことは大きな成果である。彼らの第4クオーターは、ディフェンスからボールを取りにいく、積極的なプレッシャーが速い攻撃を生んだ。第4クオーターだけ見れば20－18と勝ち越している。あきらめない気持ちが



リバウンドを奪い取る亜野選手（中央）

Replay

挫折が生んだ向上心

ラグビー部主将
横内正宏さん（政4）

2000年秋、1年生で挑戦を受けた大学は、大会の初戦、試合開始直後に先取点を許してしまう。

本学は敵陣に攻め上がり、得点のチャンスを迎える。ここで、味方からのパスが横内さんのかげで出されたが、ボールは無情にも彼の両手をすり抜け、グラウンドに転がった。相手はこのミスを見逃さずにボールを奪うと、本学陣へ猛然と攻め込む。不

意を突かれた本学はその勢いを反刃止めるのが精一杯。

ベナルティキックを許してしまうと、相手に勝ち越しゴールを決められ、そのままノ

わる。

「それまでは、大学の試合ではいつもこうなっていて、自分はこのままでもいけるんじゃないかと思ってました」

だが、大学ラグビーはそんなに甘いものではなかった。たったつのミスが敗北につながってしまうシビアな世界なのだ。

それでも横内さんは、「今思うと一年生だから早いうちにあの経験ができて良かったですね」と振り返る。あのときに挫折を経験していなくても、いつかきっと壁にぶつかっていただろう。けれども、それまでに過去ってしまった自分は成長しない。少しでも早く、挫折を味わったが

拍負を感じた。

あの挫折から8年の月日が流れた。大学ラグビーの厳しさを思い知らされた日々はあれ以来、一度も勝っていない。「勝ちを感じることができるレベルまで達することができたのが、主将としてチームを引っ張る今年、彼の真価が問われる。（大田祐貴）

挫折が生んだ向上心

TOPICS

試合結果

【水上スキー部男子】チャンピオンシリーズ第一戦
1位、シャンプ2位、総合1位

【学習院男子】全関東学生選手権大会　予選敗退〉
四大戦　2位

【学習院女子】全関東学生選手権大会　予選敗退〉
四大戦　2位

【学習院男子】8月14日　甲子園大会
【学習院女子】8月18日　全日本学生選手権大会

【フットテニス部】9月20日、21日　関東大学対抗戦授大会

【硬式テニス部男子】8月11日－14日　関東学生選手権大会
【軟式テニス部男子】9月7日、13日、16日、19日、22日　関東大学リーグ戦（4部）

【学習院男子】全関東学生選手権大会　予選敗退〉
四大戦　2位

【学習院女子】全関東学生選手権大会　予選敗退〉
四大戦　2位

【ラグビー部】8月31日　関東学生選手権大会　予選敗退〉
四大戦　2位

【ボクシング部】9月7日　関東大学リーグ戦（4部）

【ヨット部】8月31日　関東学生選手権大会　予選敗退〉
四大戦　2位

【ボート部】8月31日　関東学生選手権大会　予選敗退〉
四大戦　2位

【ゴルフ部】8月31日　関東学生選手権大会　予選敗退〉
四大戦　2位

【ソフトテニス部】9月14日　関東学生選手権大会

【ハンドボール部】9月7日　関東学生選手権大会